

19世紀スイスにおける先史時代杭上住居群の 発見がABCグループのピロティ形式の 建築へ与えた影響

建築都市工学部
建築学科
准教授

富田 英夫



研究シーズの紹介

20世紀の近代建築にスイス出身の建築家達が与えた影響は計り知れません。とくに巨匠ル・コルビュジエ、バウハウス2代目学長ハルネス・マイヤーについては建築史上重要な位置づけがなされています。

しかしながら、その一方で、二人がともに19世紀末のスイスに生まれ育ち、1920年代にピロティ形式の建築を設計していた

事は個別にはよく知られているのですが、スイス出身という文脈から考察した研究は進んでいません。

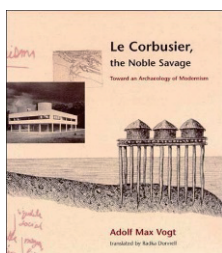
この研究は、19世紀半ばのスイスで先史時代の杭上住居群跡が発見され、その発見がABCグループのピロティ形式の建築へ与えた影響を明らかにします。



復元案と新築案の 影響関係

- 復元案は発掘調査などを元に作成される想像された建築像です。その案は、同時代の新築案にも影響を与えたのではないのでしょうか。

先史時代の杭上住宅群は、近代建築像が定まった1920年代にドイツなどで原寸の推定復元されました（右図）。フォークトは、杭上住居群の集落の想像復元図からのピロティ形成への影響を考察しました（左図）。



A. M. Vogt, Le Corbusier, the Noble Savage (1996)



ドイツのウンターヴールドインゲンに復元された杭上住宅（著者撮影）

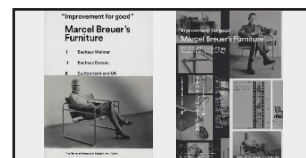
著者は、バウハウス2代目校長ハルネス・マイヤーを含むスイスの近代建築家たち（とくにABCグループ）への影響を考察しています。

期待される活用シーン

- 19世紀の考古学的研究の深化と20世紀建築デザインの関係を明らかにしたい（例：美術館）



近代建築にかんする最先端の研究成果を、学術的に解説できます（展覧会図録など）



- 建築設計図面は一般の鑑賞者には理解しにくい（例：美術館）



学術的に重要な建築については、建築図面と写真をもとに再現できます



その他の研究テーマ

建築学生コンラート・ピュッセルをとらえてみるマイヤー主導のバウハウス建築教育研究
社会主義圏で活動した卒業生の資料によるマイヤー主導バウハウス建築教育の総合的解明
1950年代北朝鮮におけるバウハウス卒業生K.ピュッセルの咸興市戦災復興計画